

2018 heimtextil **THEME PARK** Reporter MIKI KITAHARA 2/9

■ テーマパーク
テーマパークの中央では、デザインカルチャーハウスと位置付けた5つのインスタレーションが設けられた。前頁のライフスタイルのコーナーに対して、こちらは、トレンドをいち早く取り入れたカラー&デザインテイストのディレクションコーナーである。捉え方として大きなサイクルのライフスタイルを背景に、このコーナーの切り口がテキスタイルのトレンドの今を発信する。

<p>Relax/Recharge 赤と青・・・色による気分や感情への影響は大きい。赤は、リラックス効果、青はエネルギーに・・・これまでの概念を覆すように科学的に実証された。</p> 	<p>Urban Oasis インテリアをオアシスに変えるグリーン。リッチで深みのあるグリーンが、心と身体をリラックス&リフレッシュさせる。ピンクを組み合わせることでよりエレガントな雰囲気プラス。</p> 	<p>Perfect Imperfection 完璧な不完全性の表現。伝統的なインディゴ染めをインスピレーションに、ハンドメイドとデジタルなテクニックを共有し、不完全な味わいを残したテキスタイルを特許。</p> 	<p>Soft Minimal 温かみのあるソフトな色合い、柔らかな陰影を与え心地よい風合いを特徴とする。シンプルに無駄を省くだけでなく、素材の風合いを生かしながら機能性もプラス。</p> 	<p>Adapt+Assemble カラフルな産業資材や部品を家庭用の材料として再解釈。あるモノを組み合わせたリ、付け加えたりすることで新たなテキスタイルデザインが生まれる。</p> 
--	---	--	--	--

2018 heimtextil **DECO TEAM** Reporter MIKI KITAHARA 3/9

■ デコ・チーム
このコーナーの展示方法が今年大きく変わった。カラートレンドに反映したコーディネート優先し、これまでのスタイルコーディネイトの提案から、カラーを切り口としたコーディネイトの提案を行った。グリーン〜ブルーとレッド〜ピンクの2つのカラーゾーンを構成。さらにカラー毎に4つテーマを設定している。

<p>Organic Green 出展メーカー: Aplit, Sam&Viebahn, Bandex, Dulux, Paulig 明るくみずみずしいグリーンのコーディネート。植物も含め、いろいろなグリーンカラーでアイテムを組み合わせている。ダークな家具類をベースにミッドトーン、ライトカラーのバランスが重要。</p> 	<p>Relaxing Blue 出展メーカー: Unland, Hopke, Germania, Sam&Viebahn, Bandex, Dulux, Paulig 本来ブルーの印象でもあるリラックス感が、コーディネートに反映している。ダークなミッドナイトブルー〜透明感のあるウォーターブルーまでブルートーンでまとめたシーンを提案。</p> 
---	--



2018 heimtextil **DECO TEAM** Reporter MIKI KITAHARA 4/9

■ デコ・チーム
レッド系とピンク系を中心にしたカラーゾーン。各カラーテーマの空間に吊り下げられたテキスタイルや家具、テーブルにはコーディネートイメージのイメージポスターが設置され、そのイメージに合わせて並べられたテキスタイルスワッチで、ユーザーへのコーディネートアプローチしている。カラーリングと素材のテクスチャーを手にとって確認できる新たな提案スタイルを試みていた。

<p>Emotional Red 出展メーカー: Sam&Viebahn, Hopke, Germania, Bandex, Dulux, Paulig レッド系のグラデーションカラーでコーディネートされた空間。カーテンの花柄の水彩タッチや、ラグのグラデーションが、暖色の重さに潤いと抜け感を与えている。</p> 	<p>Smart Pastel 出展メーカー: Hopke, Gardisette, Bandex, Dulux, Paulig シックなピンク系をメインとするコーディネートは、全体に控えめなコントラストでニュートラルな色相につながる。シースルーな透明感やほかほかエLEGANTなムードをアップする。</p> 
---	---

2018 heimtextil **COLOR TREND** Reporter MIKI KITAHARA 5/9

■ カラー傾向
カテゴリを通して、グリーン系のカラー展開が急増。生活環境にグリーンライフの重要性が目目され、幅広い色調、色彩のグリーンカラーが登場。数年継続しているブルー系は、今年により印象強く継続。中でもインディゴブルーが色の表現が加わり再注目。昨年増加したピンク系は今年もスモーキーパステルをグレーピングしたカラーパレットとして色相の幅を広げた。

<p>幅広いグリーン ディープミッドナイト〜ライトグリーンと濃度の幅も広く、青みよりのティールグリーンや黄みがかかったモスグリーン〜カーキへと無地のグラデーションコーデや、パターンで表現。植物系のオーガニックな色合いも多い。</p> 	<p>スモーキーパステル トーンを抑えたパステルの色調が、シックで穏やかなムードを作る。アイボリーから始まる淡色のファンデーションカラーからグレイッシュな中間色のトーンを構成。</p> 
<p>インディゴブルー 伝統的な染色手法から表現されるインディゴブルーが、味わい深い色合いで表現された。ハンドメイドや工業的な手法に関わらず、ほかほかや空調、ムラ染めなどがほどこされたインクブルーの色調。</p> 	<p>カラードグレー カーテンや壁紙を中心にグレー系はもはや定番カラーとなる。うっすら色味加わり、スモーキーパステルへのグループにつながる(レットもある。グレーやグレイッシュのクールなグレー系に移行。</p> 